



オール電化の落とし穴

右肩上がりに伸びているオール電化住宅

現在オール電化住宅は日本全国で順調に普及しています。その要因として、電化の弱点とされてきた「電気代が高い」「停電の心配」などのマイナスイメージが改善されていることが挙げられます。具体的には、電気料金やメニューの改善・宣伝広告・電化機器の性能アップ・災害後の復旧スピード・高気密高断熱住宅の普及・オール電化住宅を扱う住宅建築会社のレベルアップなどが電化住宅の普及を後押ししているようです。気候風土や地域特性により普及スピードは異なりますが、今後もシェアを確保していくことは間違いありません。

しかし、上記の「高気密高断熱住宅の普及」「オール電化住宅を扱う住宅建築会社のレベルアップ」についてはまだまだ安心できない現状があります。

建築会社によって大きく変わるオール電化住宅の評価

オール電化住宅が建てられるきっかけとして、住宅建築会社側から薦める場合と、ユーザー側から求める場合に分けられます。住宅建築会社から薦める場合は比較的オール電化住宅の建築に自信を持っている場合が多く、建築中や建築後のトラブルは少ないようです。しかし、ユーザー側からオール電化住宅の建築を求められ、しかたなく建築が行われた場合は、トラブルが発生しオール電化住宅のイメージを崩す場合があります。下の表は、ある住宅メーカー2社のオール電化についての説明内容を比較したものです。

住宅メーカーA社の場合	住宅メーカーB社の場合
2×4工法がベースで高気密高断熱には自信あり。オール電化住宅の建築実績も多い。	鉄骨系プレハブで断熱気密性能に乏しい。
『当社はオール電化住宅の実績も多いので問題ありません。建築費は多少アップしますが、電気代はそんなに高くはなりませんよ。月の電気代は2万円程度です。』	『オール電化住宅は電気代が高いので薦めできません。月の電気代は4万円以上かかるのでセントラルヒーティングの方がお得です。』

A社とB社ではオール電化住宅に対するユーザーのイメージが大きく変わります。本来電気代は、その住宅性能や電気機器の使い方により大きく変動しますが、このような説明では単にオール電化住宅そのものの電気代が「安い」or「高い」だけの判断となってしまいます。「電気代が高い」というイメ

ージは、B社のような住宅建築会社が住宅性能に乏しいオール電化住宅を建築した結果、発生したイメージなのです。このような観点からも、オール電化住宅を正しく普及させる上で住宅性能は大変重要な項目と言えます。

日本の気候は、冬は寒く・夏は暑いので、暖房はもちろん冷房に関する知識も必要となります。特にエアコンは、その性能や使い方で電気代が大きく変動するので、日射の遮蔽や住宅性能にあった機器選定、その使用方法など、非常に幅広い知識と経験が必要となるのです。

高気密高断熱の危険性

上記のような理由でオール電化住宅は高気密高断熱とセットで普及しています。しかし、その工法によっては住宅寿命を縮めてしまう怖い可能性を秘めています。特にグラスウールなど空気を静止させて断熱を行う手法ではその可能性も増大します。単なる高気密高断熱ではなく、長持ちする高気密高断熱を選択することも、オール電化住宅を薦める上で大切な要素になります。

「ファースの家」とオール電化

「ファースの家」は住宅に起こる問題点に少しずつ改善を重ねて現在の形に進化して参りました。オール電化自体、住宅に起こる問題点を解決する大きな要素となっていますので、「ファースの家」とオール電化は切っても切り離せない関係にあります。更に「ファースの家」は75～90年間大型改修工事を必要としない認定を、高気密高断熱の工法としては唯一取得しています。特に重要となる工事ですが、ファース加盟工務店には、ファース検査員試験や各種研修を受けて頂いているので、「ファースの家」はもちろん、オール電化に関する知識も豊富です。オール電化住宅を建てる時やオール電化について、ファース加盟工務店にご相談ください。

孝の知恵袋

～まな板のお手入れ～

木のまな板は、湿気を吸って細菌が繁殖して、使っているうちに黒ずんだり、ぬるぬるして不潔になりがちなんだ。

だから、毎日クレンザーで磨いてよく日光に当てて乾かすんだよ。昔はしょうがの切り口でこすったり、すりしょうがで洗ったりしてまな板の生臭さを消していたんだ。また、糠でこすっても生臭さが消えるんだよ。

使い終わったまな板や包丁に、すぐに熱湯をかけて消毒する人がいるけど、この方法だと消毒にならないんだよ。それどころか、熱でたんぱく質がこびりついてしまうんだ。熱湯消毒する場合は、包丁はクレンザーで、まな板はタワシで水洗いしてから熱湯洗いをするんだよ。

